

2173再構築 15

2コクマー：叡知

エリー

2 コクマー：叡知

どんな状態の、どんな知恵を指しているのだろう。

<調べた言葉>

えいち〔英知・叡知・叡智〕

感じて何を望むかが感性なら、考えてどう判断するかが、知性かな？

感じることと考えることとどう違うんだろう？

ちせい〔知性〕

感性＝肉体

知性＝精神

インプットとアウトプットが感性で、途中の加工が知性という感じもする。

せいしん〔精神〕

7つの大罪

ゆうき〔勇気〕

わたしはAに賛成する。

なぜならBだからだ。

たしかにCという見方もできるが、Dが言える以上、Aは正しい。

だから、Aに賛成する。

この文章の賛成を、反対に入れかえても成立する。

A＝何に対して

B＝何を根拠に

C＝何と比較して

D＝何を延長に考えて

賛成や反対を言うかは、言葉の上では自在に操れる。

「自分の考えを深める」という意味では、思ってもないことでも一度は筋道を追ってみると、大いに役立つ。

論理性を鍛えるという意味で、大切な役割を果たす。そういう勉強もあるくらい。

しかし、自分の考えとして、他人に対して主張するとき、自分の感覚や信条から切り離された

ことを、「新しい視点を入れなければ発言する価値はない」と、言うことには意味がない。

自分から切り離せない大切なことを言うより、思いもしない意外な視点から攻める方が、目立つし、話を広げたような気持ちになる。しかし、血肉の通っていない虚しい論理に耳を傾けることは、時間の無駄でしかない。

ゲームとして争うことと、自分の立場から語ることは別。

どれだけバカバカしい矛盾した小さな思いでも、みんなと同じで埋もれてしまうとしても、自分から切り離して話したつげは、その人自身に返る。

自分がそうだから、他人もまた目立つために思ってもないことを言っていると考えるようになったら、信じることは何もなくなってしまう。

自分を語って、理解されなかったり、バカにされれば辛い。自分から切り離された、当たり障りのない、「痛くないこと」を言い合えば楽だ。

関わりの浅い人とは、「痛くない範囲」にとどめた方が、お互いのため。全ての人に深入りする必要はない。

しかし、関わりが深くなっても、自分を語らない態度は不信感を生んでしまう。

互いに知りたいと思合っている相手に対して、知ったら拒絶されるかもしれないにもかかわらず、自分を語ることは勇気がいる。

まして、無視された状態で、自分から心を開き続けることは、強くなければできない。

個人的な思いでも大変だが、他人を巻き込むような信条を主張しながら、相手のことも知る姿勢を失わない、相互関係を保つことはとても難しい。

相手の信条を受け入れて、自分を殺すことは、始めるのは簡単だが、自分を殺し続ける地獄が待っている。

どんなにその方向で努力しても、自分の存在を肯定し、安心した気持ちになることはない。頑張るほど、怒りと悲しみに支配される。

楽しいのは、面白いと感じて迎合した一瞬だけ。あとは我慢の連続。

自分の信条を無条件に受け入れることは求めたことがないから分からないが、意志のある人間なら逃げ出すだろうし、自分を強く見せかけ続けることは幸福とは言えないのではないか。

弱さで脅して、感情で振り回して、「聞いて当然」という意識を持てば、受け入れて当たり前だから何の感動もなく、少しでも思い通りにならなかった時に不満を持つ。喜びとはほど遠い状態にある。

もし、叡知を幸福な人間関係を保つ知恵とするならば、自分の感覚を無視せず、相手の感覚に興味を持ち、互いを見せあう勇気を持つことで生まれるものだと思う。

それがどんな状態なのか、実感がわかなくて、書けなくなっていた。

隣の芝生を青く思ってそれさえ手に入ったらと思ひ込んだり、やって当たり前で少しでも気に入らなければ不満ばかりな姿は、人として醜い。

しかし、それが本当に感じていることなら、そう言うしかない。

強要された感謝では意味はない。自発的に思うことで意味を持つ。

わたしは、「ありがとう」を強要されて育った。

怒られる前に空気を読んで、先回りして、自分を押さえつけていた。

人が認めてくれるよいことをよいと信じて、何のためらいもなく、認めてくれることをしようとした。

幼稚園に入る前後のころ、母の仕事が終わるのを待ち続けて、完成したブロックの城を見せたが、母は全く関心を示さなかった。

「自分の好きなことを見せては駄目なんだ。相手が好きなことをしなければ」と思って以来、わたしは一人の時しか自分の好きなことをしなかった。

でも、わたしの娘は、いやがらせをしてでも自分に注意を向けさせようとして、「そんなことしたら嫌いになるよ」と言ったら、「嫌われてもいいよ。見てくれれば」と言い返されて、わたしとは何かが違うと思った。

小学生のころは、友だちとの関係でも、ずっとそんなことを繰り返していた。

べったりいつも張り付いていて、うんうんと聞き役に達して、心から感心するんだけど、そうでない気持ちになった時に、あわせることが辛くなって離れるみたいなの。

今考えると、悪いことをしたと思う。

そういうのがめんどくさくなって、誘われればたまには参加するが、基本は一人で行動するようになった。

小説「何者」を読みかけて、内心嫌っているのに付き合う気持ちが分からないと思った。

そしたら、喫茶店に入ったら、女子大生のグループが、隣で、友だちの行動の品評会を大声で開いていて、嫌でも聞こえてしまって、嫌な気持ちになった。

別の店に移動して、食事をとることにした。その店には昼間入ったことがあるが、夕方入るのは初めてだった。サラリーマンがグループでお酒を飲みながらいろんな話をしていて、カオスだった。

どっちもわたしには縁がないし、なくてもいいと思った。

でも娘とケンカして、怒りのあまり黙る、をしたわたしは、本音をぶつけ合う叡知の姿とは真逆で、時間の無駄に思える品評会をする女子大生の方が、人間らしいかもしれないと思えた。

「怒りのあまり黙る」が、わたしの本音と言えそうだが、何に対して、どう怒っているのかは、その場ではよく分からなかった。

数日かけて、少しずつ、言葉に整理していった。

そして、一緒にゲームをすることになっているのに、何も言わず、勝手なことばかり主張するので、「自分の主張ばかりして、決めないし、言った通りにしないのは信頼がない。小さなことを積み重ねてこそその信頼じゃないか」と言ったら、意外なことに「それこの前わたしがいった」と言い返してきたので、「それならやれ」と返して、お互いに怒っていたことに気がついた。

大切な決断をするために、1月いっぱい待つ約束だったけど、新しい情報を仕入れたから、やりたいことに集中している時間は避けて待って、話に言ったら、「アポイントメントをとってないから今は話さない」と言われた。ゲームをしているだけなのに、何様のつもり、と思う。

しかし、「（結論を）今は話さない」と言いたかっただけなのかもしれない。

「今すぐ結論は出せない」と言われたら、「知ったことを伝えにきただけだから、今日はいいよ」で終わったのに、曖昧な理由をつけるから、何が言いたいのかさっぱり分からない。

真相は分からないが、もし、本気でアポイントメントが必要だと言っているなら、わたしのアポイントメントもキチンととってもらおう。

やり返さなければ成立しないこともある。

偉大なる叡知に気をとられて、俗な雑事が疎かなのも、中身がない。

雑事こそが、「何かが欠けている」と感じたものの正体だったのだろう。

誠意を持って間違いを指摘しても、悪意を持ってふざけて指摘しても、「指摘される衝撃」は変わらない。

自分は正しいという立場で誠実に指導しようとする態度の方が、むしろ傷つけることさえある。

悪意ある、真実を語る一言は、自分を知る上では、意味がある。
無視より心を使っている。

汚いこと、醜いこと、愚かなことに、関わるのが嫌で、明るく楽しい会話を繰り返しても、それは叡知とは言えない。

正しいと言われることを、心から正しいと信じられても、その立場のまま、自分とは切り離して汚いこと、醜いこと、愚かなことを眺めても、それも叡知とは言えない。

同じ立場までおりていって、なおかつ、正しい方向を示せる人が叡知なのだと思う。

「そもそもそんなことは思わない」という人は、頑張っても、同じ立場に下りられない。
他人の話でしかない。
善人が叡知を持つことは難しい。
悪人だからこそ、叡知を持てるのかもしれない。

わたしがなりたくても、なれないヒーローは、汚れを知らない人ではなく、汚れを抱えていてなおかつ正しい方向を求められる、強い心の持ち主なのだろう。

システムは必要だし、誰かが担わなければならない。

でも、自分は自由でいたい。

そういう人間の本音と向き合って、人を率いていく知恵こそ、叡知なのかもしれない。

そういう意味では、最初から「システムは必要だし、なにかしらの役割を担いたい。しかし、やれるだけの体力がない。何が出来るか」と模索しているだけの主人公ララには、闇がない。

ボナ先生にはあるんだろう。「子どもを教えるより、一日中好きな天体観測をしたい」という本音を持ちつつ、「しかし、それは正しい姿ではない」と意志の力で、子どもたちと真摯に取り組むから、雑事にも対応できるのだろう。

ララに闇があるとしたら、「もっと見たい」という好奇心を抑えられない点かもしれない。